

## 水無月の聞き書き 一定年記念旅行



先週の13日～14日は、大学学部時代の同窓生（文化人類学・民俗学研究者）4人と一緒に赤穂、たつの、姫路、大阪を歩きました。瀬戸内海の津で保存されている街並みの様子を見て盆踊りに関する民俗報告書を収集することが目的で、生活文化の一つひとつをそれぞれの眼で分析し、その多様な考察を互いに参考にする旅でした。聞き書きに応じてくれた地元の方々に感謝です。



14日の午後は、運よく住吉神社（大阪）の御田植神事の一部を見ることができました。田植えの様子を見る機会は多く、ときには妙高山の前山、神奈山（新潟）の跳ね馬の雪形を見ながら田植えの手伝いをしたこともあります。神事としての田植えを見る機会は初めてで、期待は高まります。



約2反の御田に苗を替植女と奉耕者が移植し、作業が終わるころに、住吉踊りが披露されました。御田の中央の舞台上、そして御田のまわりで、指導師が傘の柄を叩き拍子を取り、謡い、その音頭にあわせて童女たちが円陣を組み、飛び跳ね、団扇を打ちながら踊ります。作業を終えた喜びと実りへの期待を素朴に表現した踊りでした。「かっぽれ」は、この踊りの流れを汲むとか。面白いつながりです。

「エー 住吉さまの イヤホエ 摂津浪速の一ノ宮 その名も高き 住吉の 神の御前の神踊り 天下泰平国土安全 五穀豊穰民栄え 治まる御代のしるしとて 心一ツに働けば 末は住吉平楽や かねてぞ植えし 岸の姫松目出度さよ エー 住吉さまの イヤホエ」(住吉踊りの歌詞) 大阪住吉大社社務所 2015『住吉大社御田植神事 - 諸役と芸能について -』大阪：住吉大社 より)

神事の終わりを待っていたかのように、ひととき、大粒の雨。神様が豊作を約束した証でしょうか。



15日は京都の上賀茂神社に行きました。夏越の祓の茅の輪がすでに用意されていて、お日柄もよかったようで、結婚式に向かう新郎新婦も茅の輪をくぐっていました。私も「茅の輪くぐり」をいつもより丁寧に時間をかけて終えました。「水無月の夏越の祓する人は、千歳の命延ぶというなり」の唱え事通りに、私も長寿を約束してもらえたと信じています。でも、自重し、体重を何とか減らさなければ。老舗の「水無月」はすでに売り切れ。京都駅の売店では、数多くの観光土産の脇にそっと置かれていました。6月30日は是非主役に。

今回の短い旅行は、夏空の日もあり、雨降りの日もあり、突然の雷雨の日も。京都で出会った人は、梅雨を実感する本来の蒸し暑さがまだ感じられないと話し、梅雨入りはもう少し先という気象情報に「そうでしょう」と納得していました。今週は「関西も梅雨入り」のニュースが届くのでしょうか。